

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成26年12月27日 (NO.43)

浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所



第2部 パネルディスカッション 「コミュニティ・スクールの導入」

パネラー 四柳千夏子氏 (講師)
平岡弘孝氏 (校長会長)
山口 純 氏 (町P連会長)
岸田 睦 氏 (CS推進委員長)
笹川尚哉氏 (浦小教諭)
コーディネーター 久門好行(教育長)

パネルトーク・1～2

「CS導入への期待、CS導入への関わり方について考える。」



四柳千夏子氏

(四柳千夏子氏からのアドバイス)

- 四輪駆動でCSを進めていくことに共感します。CSのハンドルを握るのは誰でしょうか。それは校長先生です。校長先生がみんなの熱い思いをひとつの方向に向けていくと、大きな力になります。
- CSを基盤とした小中一貫教育を進めるとき、プラスアルファの仕事が増えますが、その負担以上に意義があり、子どもの姿となって戻ってきます。来場された皆さん方が中心となってCSに取り組みましょう。
- パネラーやフロアーの皆さんの発言に感謝しています。今日がCSのキックオフの日です。遠慮せずに言い合える関係作り、顔の見える関係作りに努めることが大切です。
また、校長先生の「辛口の友人」として言いたいことを言わせていただき、言ったからには一緒になって子どもたちを育てていく義務があります。浦幌にあったCSが展開されるよう期待しています。

フロアトーク

「CS導入に何を期待するか、学校、家庭、地域それぞれの立場から考える」

フロアーの皆さんが4人1グループになり、パネルトーク1と同じテーマで話し合いました。全体会では、5名の方々から話し合ったことなどの発表がありました。

◎四柳さんの講演を聞き、CSの方向性が明らかになってきた。浦幌の教育は明るい。

地域の大人がもっと子どもに関わっていくことにより子どもは育つ。

◎この場に町長や副町長、議長、議会議員の皆さんが出席していることが素晴らしい。CSは必ず成功する。大樹でもCSを生かしていきたい。

◎四柳さんが「子どもたちはボランティアの人を先生と呼ぶ」という話が心に残った。

地域の人すべてが先生となり地域の活性化につなげていくことを願っている。

◎本来は家庭や地域でしなければならないことを学校教育が担ってきた。CSの導入により、先生方の負担は減っていくと思う。

◎浦幌は農業王国。畑は1回耕しただけでは作物は作れない。教育も同じことで、みんなで耕し直しをしながら子どもを育てていくことが大切だ。